

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」

I. 学校名 長沼町立北長沼小学校

II. 研究の概要

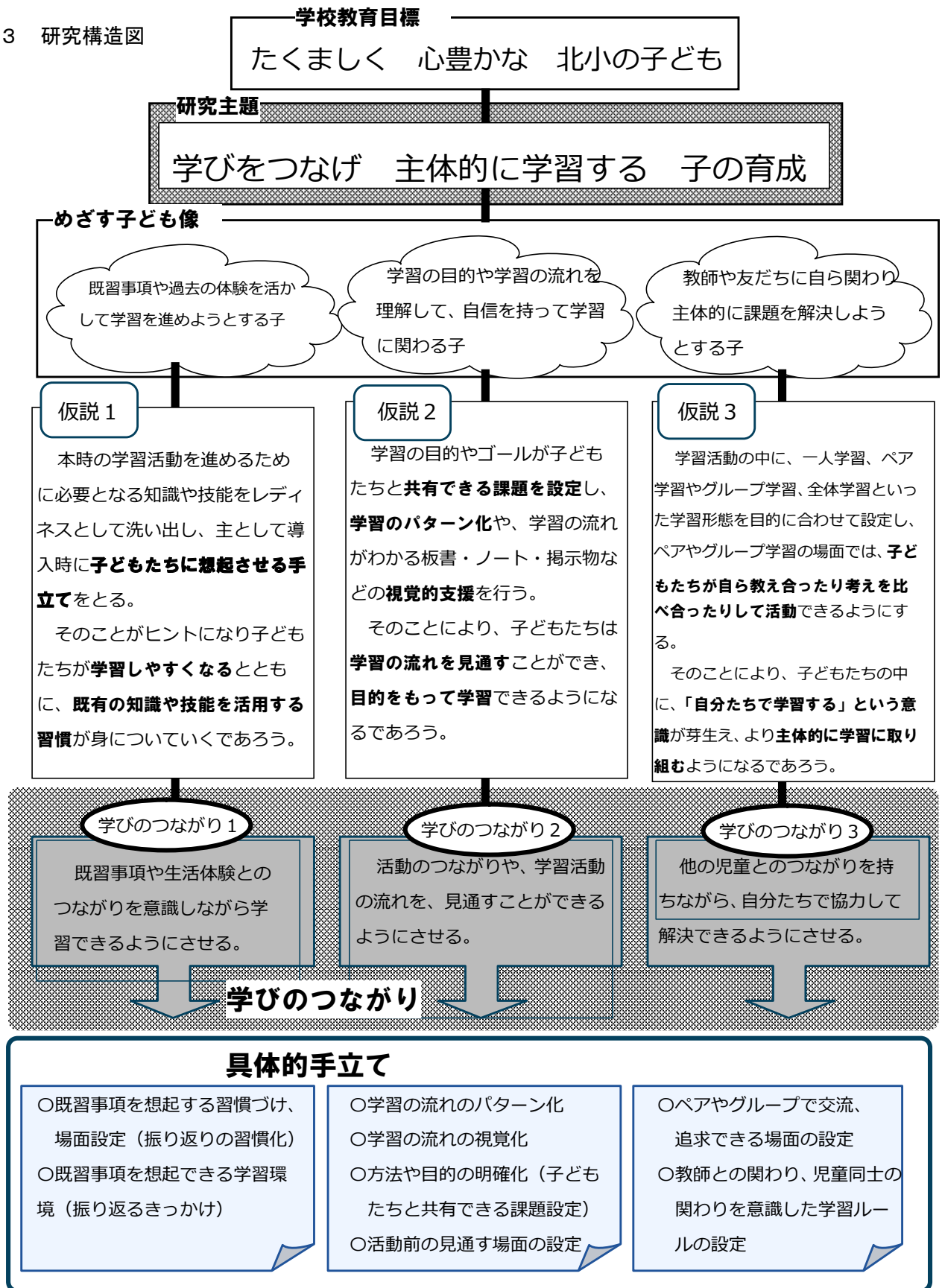
1. 研究主題

「学びをつなげ、主体的に学習する子の育成」

2. 研究の仮説

- ① 本時の学習活動を進めるために必要となる知識や技能をレディネスとして洗い出し、主として導入時に子どもたちが想起しやすい手立てをとる。そのことがヒントとなり子どもたちが学習しやすくなるとともに、既存の知識や技能を活用する習慣が身についていくであろう。
- ② 学習の目的やゴールが子どもたちと共有できる課題を設定し、学習のパターン化や、学習の流れがわかる板書・ノート・掲示物などの視覚的支援を行う。そのことにより、子どもたちは学習の流れを見通すことができ、目的を持って活動できるようになるであろう。
- ③ 学習の活動の中に、一人学習、ペア学習やグループ学習、全体学習といった学習形態を目的に合わせて設定し、ペアやグループ学習の場面では、子どもたちが自ら教え合ったり、考えを比べ合ったりして活動できるようにする。そのことにより、子どもたちの中に、「自分たちで学習する」という意識が芽生え、より主体的に学習に取り組むようになるであろう。

3 研究構造図



4 研究の内容

1. 「学びのつながり」を活かした複式指導の実践
2. 本校の目指す児童像をもとにした単式指導と複式指導の連携
3. 空知へき地複式教育研究大会に向けた研究のまとめ
4. 「学びのつながり」の総括

公開研究会（空知へき地複式教育研究大会） 9月20日

3年国語「物語をしょうかいしよう」指導者 辻脇志郎 教諭

5年算数「単位量あたりの大きさ」

6年算数「角柱と円柱の体積」 指導者 東 博史 教諭

5・6年 算数



3年 国語

空知へき地複式教育研究大会の助言者より

児童が主体的に学習を進めるために必要な、一人一人が身に付けた既習事項と周りの友達と協力する学習を本校のメインとして進めてこられ、本日の授業でもその様子が見られていました。また、複式のメリットを単式にも活かすという取組があります。全ての授業に取り入れて6学年にわたって進められているというのが注目すべき点です。そうした工夫の中で本校の子ども達が主体性を持ってメリハリのある授業が進められています。

もう一つの取組は、ワークボードを活用していることです。思考力、判断力、表現力の育成の評価については、本校ではワークボードを使って、子ども達が考えを交流しています。複式の授業で一人一人を見取るために、見える工夫がされていたなと感じました。

5 成果と課題

1 「学びのつながり1」(既習事項や生活体験とのつながりを意識しながら学習でききるようにさせる)について

ノート、掲示物、実物投影機などを使った既習事項の想起が子ども達の学びに結びついてきている。メインの課題解決の時間が十分確保されるよう内容を精選する必要がある。

2 「学びのつながり2」(活動のつながりや、学習活動の流れを、見通すことができるようにさせる)について

具体的な課題設定と学習の流れのパターン化等により子ども達が学習の流れをイメージしやすくなってきている。指導事項と合わせながら思考や表現の手立てを獲得させていく必要がある。

3 「学びのつながり3」(他の児童とのつながりを持ちながら、自分たちで協力して解決できるようにさせる)について

答え合わせや把握状況の確認といった段階から一歩進んで、課題解決のための関わりも増えてきている。関わることでよりよいものを目指すために、話し方・聞き方などのスキルも高めていく必要がある。

4 「単式—複式のつながり」について

単式学級に比べ、複式学級の方が子ども達に「学びのつながり」を必然的に要求し、子ども達にも学び方が身に付いてきている。そこで、単式学級においても、①教師がつかなくても、友だちと一緒に解決を図る、②自主的に学ぶ姿勢を基盤にして自分たちで学習を進めることができる、③課題をしっかりと把握し、時間を意識しながら自力解決に取り組むことができる、といった複式指導のよさを取り入れた。学び方を育てると同時に、学習内容の習熟・定着の時間についても十分確保されるようにしていく必要がある。



ワークボードを使って思考中



友だちと課題解決を図る